



たんぽぽ



5月23日から25日まで県内各会場で
高知県高等学校総合体育大会が行われ、
9団体15個人が優勝しました。

「夢へ躍進 青春の夏 近畿総体 2026」は、
7月末から各競技会場で行われます。



カヌー部 岡村明咲さん
アジア大会で
金メダル獲得！
(P12)





- バドミントン
男子シングルス
3回戦敗退 竹村元希
- 弓道
個人戦
一次予選敗退
島田そら
ヘレルンバヤル グンジドマー
アマルバヤスガラン エゲシゲレン

- 硬式テニス
男子団体戦 2回戦（初戦）敗退
男子シングルス
1回戦敗退 寺島裕成
西山奏
川井大河
男子ダブルス
1回戦敗退 寺島裕成・西山奏
女子シングルス
1回戦敗退 仲村美海
小林華奈
2回戦敗退 石元愛美
女子ダブルス
1回戦敗退 仲村美海・小林華奈



- ソフトテニス
男子団体 優勝
(杉田陽星・山田隆真・
近藤孝太郎・柴崎雄斗・
林寿李稀・前川遼・
添田玲音・福見優心)
- 女子団体 優勝
(土岐星空・川口夕奈・小林杏・
坂吉愛美・瀧本千宝・弘瀬美咲・
岡部こころ・山本愛結奈)

- 男子個人
優勝 柴崎雄斗・前川遼
2位 近藤孝太郎・福見哉太
3位 大平庚真・吉永友輔
3位 福見優心・林寿李稀
5位 百々哲也・内田宗汰
6位 佐藤佑・山田隆真
7位 野本旺莉・ショート アンセル
8位 添田玲音・杉田陽星
- 女子個人
優勝 弘瀬美咲・瀧本千宝
5位 岡部こころ・山本愛結奈

- 高校サッカー 準優勝
- 柔道部
男子団体 準優勝
男子個人
73kg級 優勝 國澤天晴
// 準優勝 泥谷洋助
// 3位 東一太
90kg級 準優勝 ガンバト ソドルジ
100kg級 準優勝 岡林大翔

- ウエイトリフティング
男子71kg級 優勝 木原天祐
- 男子バスケットボール 準優勝
- 女子バスケットボール 3位
- 女子バレーボール 準優勝

- 剣道
男子団体 2回戦敗退
男子個人
4回戦敗退 土居志道
3回戦敗退 田村拓士
3回戦敗退 常徳蓮
女子個人
2回戦敗退 今井里紗
2回戦敗退 濱口希

- 女子個人形
準優勝 加島陽桜莉
5位 須恵みゆう
- 男子個人組手
優勝 辻岡季也
準優勝 清水一樹
3位 横田龍
4位 川村偉飛
5位 川島海二
野口航平
横田竜
- 女子個人組手
準優勝 須恵みゆう
3位 横山仁子
5位 竹内実麻
川崎心菜
加島陽桜莉

- 卓球部
男子団体 優勝
女子団体 優勝
男子ダブルス
優勝 中川翔太・柳本進太郎
準優勝 渡邊聡太・高橋斗真
3位 長谷川琳・西川颯人
3位 青井優空・金盞泳
女子ダブルス
優勝 立川釉菜・青井里穂
準優勝 石井理央・小橋萌加
3位 吉田璃乃・駒瀬あゆみ
3位 水元心愛・村田愛心
男子シングルス
優勝 柳本進太郎
準優勝 西川颯人
3位 渡邊聡太
3位 青井優空
ベスト8 長谷川琳
ベスト8 中川翔太
ベスト8 刘竝毅
ベスト8 高橋斗真
女子シングルス
優勝 立川釉菜
準優勝 青井里穂
3位 小橋萌加
3位 水元心愛
ベスト8 石井理央
ベスト8 吉田璃乃
ベスト8 駒瀬あゆみ
ベスト8 大吉悠加

県体結果

- 相撲部
団体戦 優勝
(坂本脩、アディテヤ、小野颯真、
奥野幸希、浜田美汰)
- 個人戦無差別
優勝 アディテヤ
準優勝 オーダム
4位 ナムハイ
5位 坂本脩
6位 ブフウルズイ
7位 浜田美汰
個人戦 100kg 級
優勝 北川由大加
- 高校野球 ブロック優勝
- ソフトボール 優勝
- カヌー
男子カナディアンシングル
優勝 楠瀬希昇
女子カヤックシングル
優勝 岡村明咲
男子カヤックペア
優勝 佐竹海頼・ワニチャヨパコーン ポチャラ
男子カヤックシングル
4位 佐竹海頼
準決勝敗退 竹下虎太郎
女子カナディアンシングル
オープン参加 2位 アヤンガ オラム オンダラハ
- 空手道部
男子団体組手 優勝
女子団体組手 優勝
男子個人形
優勝 赤松丈太郎
準優勝 松本涼太
4位 川村偉飛
5位 田宮虎哲



4年C組 籾 留衣 兵庫県 / 高校バレーボール



これまでやってきたバレーボールでもっと上に行きたいと思ったとき、大自然に囲まれた明德義塾高校でなら、学業との両立ができる考えたので明德への入学を決めました。

特に、様々なところから集まってくる仲間と切磋琢磨してお互いを高めあえる環境と、親元を離れ自立した生活を養う寮生活や、バレー部の一員として先輩の背中を見て成長し、厳しい練習を乗り越えることで、強い精神力とこの環境でしか築くことのできない団結力や友情を育ていけるところが良いと思いました。

入学から2カ月たった今では厳しい練習や、寮生活にも慣れてきて、仲間と支え合い、充実した日々を送ることができています。

今のバレー部のメンバーでできる日数も減ってきているので先輩たちの為にも大きな大会で良い成績を残せるようにこれからも仲間と共に頑張っていきたいです。

4年特進 佐藤 佑 宮崎県 / 男子ソフトテニス



僕が明德に入学した理由は、部活と勉強を両立できる環境があるからです。部活動では、男子ソフトテニス部に入り、共に全国の頂点を目指す仲間と切磋琢磨しながら日々練習にはげんでいます。勉強では、大学進学を目標に日頃から生活の中に勉強時間を取り入れるよう習慣づけています。

明德生活を通して感じたことは、親への感謝と、仲間がいるありがたみです。家での生活とは違い、ほぼ全てのことを自分でやらなければならない。あたりまえのように思っていたことがあたりまえではなく、両親のおかげだと実感し、とても感謝するようになりました。また、初めてのことが多い高校生活で、仲間の存在がとても大きな助けとなりました。分からないことがあったら教えてもらい、明德に馴染めるように沢山のことをしてもらいました。そのおかげで、不安だった最初と比べ今では楽しい生活を送れています。これからも明德生としての誇りをもち、日々精進していきたいと思っています。

4年特進 奥田 陽菜 兵庫県 / 女子バスケットボール



私が明德に入学した理由は、バスケットボール部でプレーしたいのと、その中で大学に進学したいからです。

中学生で明德と練習試合をさせてもらった時、顧問の芦川先生と先輩たちの仲の良さやベンチからは元気で明るい声掛けが多く試合をしていてとても楽しそうだったので「私も明德でプレーしたい」と思いました。そして特進コースでは勉強も頑張ることができると聞き、明德で3年間頑張ろうと決意しました。

入学して2カ月が経ち感じたことは留学生との交流と、責任感についてです。明德には世界の国々からの留学生がいて、女子寮では日本人と留学生と一緒に生活しています。文化の違いもあり、日本語が通じなくて大変なこともあるけど、そこから学ぶこともたくさんあります。寮生活では、自分の行動は全て自分で責任をとらないといけません。とても大変なことだけど、これから社会で生きていくためには大事なことです。それを中学・高校から学べるのはいいことだと思います。

これから私は明德生の一員として、部活と勉強に一生懸命取り組み、3年間の寮生活で色んな事に挑戦していきたいです。

4年B組 町田 紗和 福岡県 / 空手



私が明德に入学した理由は、空手の大会で上位入賞したいと考えたからです。体験入学に参加した時、先輩方が後輩へ適切なアドバイスをしているところや、一生懸命頑張っている姿が素晴らしいと感じました。自分の技術面だけでなく、精神面でも高めることがこの部活だったらできると感じました。

2カ月経って、先輩に対する礼儀や、稽古がきつくても諦めない精神力が鍛えられているように感じます。

これからの目標は、来年の県大会で優勝し、四国大会で上位入賞することです。

4年B組 松塚 凰雅 奈良県 / 男子バスケットボール



明德に入学した理由は、学業と部活動の両方に真剣に取り組める環境が整っており、寮や私生活など自分自身を大きく成長させられると考えたからです。

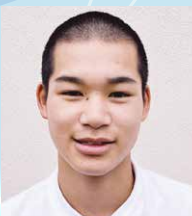
特に様々な地域や国から集まる生徒たちや留学生と交流できる環境に魅力を感じました。多様な価値観と文化に触れながら視野

を広げたいと思いました。そのような仲間と学校生活を送り、お互いに刺激を受けながら成長していきたいと考えています。

勉強と部活動を両立させ、何事にも最後まで諦めず努力する姿勢を身に付けたいです。また、バスケットボールでは、日々の練習を大切に、チームに貢献できる選手になること、たくさんの友達と仲を深めることを目標としています。

そして、多くの出会いを大切にし、人間性を磨きながら充実した3年間を過ごしたいと考えています。

4年C組 吉浦 晃樹 島根県 / 男子バスケットボール



明德に入学した理由は、強いところでバスケットをしたかったからです。地元でもよかったけれど、高知の方が留学生もいて、一人ひとりの個人能力やレベルが高いと思いました。体験に来たときはとても緊張していましたが、周りのみんなは盛り上げてくれたりとても優しく接してくれたので、地元から離れたところでも安心してバスケットができると思いました。

初めての寮生活は体調不良になったり、慣れなくて心配していたけど、先輩はとても優しくかったです。部活動では、Aチームに入ることが多く、レベルが高くやりにくいこともありますが、早く慣れるように、練習や自主練習を誰よりも頑張りと、筋力・体力づくりや技術・基礎を徹底していきたいです。大学進学も目指しているので、一生懸命勉強も部活も両立できるように頑張ります。

高校3年間でウィンターカップに出てベスト8に入れるように、特に自分たちの代でウィンターカップに出られるように頑張ります。

1年2組 吉本 ひびき 大阪府 / 和太鼓



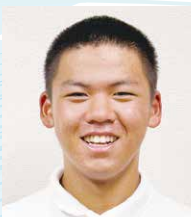
私がこの学校に来た理由は、二つあります。一つ目は、海外留学に行けることです。中学生のうちからオーストラリアへ2週間留学できる学校はあまりありません。また、高校生になると長期間の留学にも挑戦できます。

未成年のうちから海外へ行ける機会はとても貴重だと思います。留学では英語力を身につけることができるだけでなく、現地で友達を作ることもできます。私はそんな出会いができることにとても魅力を感じています。

二つ目は、自分の住んでいる県や国以外の人たちと関わるができるからです。地元だけで生活していると、関わる人も限られてしまいます。しかし明德では、海外から来た留学生と交流したり、いろいろな国の言葉や文化について学んだりすることができます。また明德では、規則正しい生活や目上の人への言葉遣い、そして家族への感謝の気持ちなど、人として大切なことも学ぶことができます。

これからも、たくさんのことを学んでいきたいです！

4年A組 成 眞佑 東京都 / 高校野球



私が明德義塾に入学した理由は2つあります。

1つ目は、野球に専念できる環境が整っていたことです。私はこれまで6年間野球を続けてきました。平日も休日も自主練習に励み、野球中心の生活を送ってきたため、高校でも365日野球に打ち込める環境で自分

分をさらに成長させたいと考えました。

2つ目は、寮生活を通して自立したいと思ったからです。将来、社会に出れば一人暮らしをする機会もあると思います。そのため、今のうちから洗濯や掃除、整理整頓などを自分で行えるようになり、生活面でも成長したいと考えました。

これからの目標は、甲子園に出場することです。その目標を実現するために、日々の練習はもちろん、私生活でも規則正しい生活を心掛けていきます。また、学業にも真剣に取り組め、良い成績を残せるよう努力したいです。野球だけでなく、その先の人生も見据えながら、明德でさまざまな経験を積み、自分自身を成長させていきたいと思っています。

4年A組 内村 絆 茨城県 / 高校野球



私が明德に入学しようと思った理由は、より高いレベルで野球に取り組みたいと考えたからです。また、野球を通して自立心を養い、多くの人から応援してもらえるような人間性を身に付けたいという思いで中学1年生から入学しました。

寮生活では、洗濯や掃除など身の回りのことを自分で行わなければならない、その経験を通して両親への感謝の気持ちがより一層強くなりました。

高校生になって2カ月が経ち、野球面では先輩方のプレーから学ぶことが非常に多いと感じています。これからはまずしっかりと体づくりに取り組み、少しでも早く試合に出場できるよう努力していきたいです。

また、勉強面でも平均85点以上を取ることを目標に掲げ、日々努力を続けていきます。1日1日を大切にしながら、野球も勉強も全力で頑張っていきたいと思っています。

Youは何しに明德へ?

Why did you come to Meitoku?



1年1組 山西 貴太 高知県 / 中学サッカー



僕が明德に来た理由は、環境が整っているし、山の中からサッカーに集中できると思ったからです。2カ月経って、自分が想像していたより縛られていないと感じました。自動販売機もあるし、パンも売っていたり、好きなものを買えるので意外と自由だと感じました。

これからの目標は、県大会に向けて日々の生活を見直して、全力で練習し、優勝して四国大会へとつなげていきたいです。

1年1組 平石 聖太郎 熊本県 / ゴルフ



僕が初めて明德に来たのは、小学5年生の時のオープンキャンパスでした。ゴルフ道場で練習したとき、「明德でゴルフをしたい」と思いました。6年生になって、お父さんに「本当に明德に行きたいのかももう一度オープンキャンパスに行って考えてごらん」と連れて行ってもらい、またあの練習場で練習を

して、「やっぱり明德でゴルフがしたい」と思いました。正直、勉強は得意ではなくて今はすごく大変ですが、先輩方の頑張っている姿を見て、僕もそんな先輩になれるよう頑張りたいと思いました。今までお父さん、お母さんにしてもらっていたので洗濯や寮生活は大変ですが、授業参観に来てくれた時に二人がびっくりするように頑張っていきたいと思っています。クラスのみんな、仲良くしてくれてありがとう。6年間よろしくね！

1年2組 高橋 隼斗 北海道 / 中学野球



僕が明德に入った理由は、自分の目標のためです。野球選手として甲子園に出場すること、そしてプロ野球選手になること。そのためには厳しい練習や寮での生活など、人一倍強くなれる環境や強い覚悟が必要だと思いました。そして、自分が人として成長したいと

思ったからです。スポーツが誰よりもできること、誰よりも勉強ができること、それ以上にどんな人間であるべきかが大切だと思いました。あいさつや礼儀など、そういったものを学べるのも明德に入った理由の一つです。そのためにもこれからは、野球や日々の生活にきちんと意識をもって取り組もうと思いました。



入学式

4月10日、令和8年度入学式が本校体育館にて厳かに挙行されました。前日から降り続いていた雨の中でしたが、新しい制服に身を包んだ新入生282名を無事にお迎えすることができました。入学式終了後には雨も上がり、新たな学校生活の門出を祝福するかなような穏やかな空が広がりました。

誓いの言葉 新入生代表 松下泰士

春のあたたかな風に包まれ、新たな季節の訪れを感じるこの良き日、これまで大切に育ててくださった両親をはじめ、多くの方々に支えられながら、入学式の日を迎えることができました。期待と少しの不安を胸に、私たち新入生一同は明德義塾中学・高等学校に踏み出します。父がかつて立ったこのグラウンドに私も立てることの喜びと誇りで今、胸がいっぱいです。今日という日を新たな出発点として、仲間と共に学び、感謝の気持ちを忘れず、夢や目標に向かって一步一步努力を重ねてまいります。(一部抜粋)



新入生
研修



4月30日、本校食堂で新入生を対象とした研修を行いました。研修の冒頭では、校長先生より、4月の入学から1カ月、慣れない学校生活の中でよく努力してきた新入生たちに、温かいねぎらいの言葉が贈られました。

校長講話では、本校が開校当初から大切にしてきた教えについて、初代校長・吉田幸雄先生の言葉を交えながら、分かりやすくお話くださいました。「明德時間5分前行動」「話は目で聞く」「挨拶と清掃の大切さ」といった日常生活の心構えに加え、「相手を恨んではいけない 憎んではいけない 自分が悪いと思って神様に謝罪し 相手の幸福を祈らなければならない」「一刻生涯」、そして「与えられた能力をフルに発揮し、ベストを尽くして使命感に燃える」など、生徒一人ひとりが心に留めてほしい大切な教えが語られました。新入生たちは真剣な表情で耳を傾け、本校生徒としての心構えを新たにすると貴重な時間となりました。

【DXハイスクール】 令和8年度高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)継続3年目の採択校に決定

4月1日、明德義塾高等学校は、文部科学省による「DXハイスクール事業」において、令和8年度も重点類型(グローバル型)の採択校として選定されました。これにより、本校は昨年度、一昨年度に続き、3年連続での採択となります。本校ではこれまで、「スポーツ×DX」「グローバル×DX」を軸とした先進的なデジタル教育活動に取り組んでまいりました。大学や外部専門人材と連携しながら、生徒自身がデータを活用し、課題を発見・解決する力を育む教育を展開しています。スポーツ分野においては、部活動の現場で取得した実データをもとに、競技力向上につながる要因を分析する「スポーツデータサイエンス」に挑戦してきました。例えば乳酸値の測定を通して、個々の疲労度やパフォーマンスのピークを可視化し、選手一人ひとりの特性理解に基づくトレーニングの最適化を図っています。またグローバル分野では、海外姉妹校との連携による「高校生

国際会議」を実施し、英語を活用した課題解決型学習に取り組み、留学先のマップをGoogle Earthを活用した留学オリエンテーションを実施します。昨年度はSDGsをテーマに、ペットボトルの再生利用を題材とした共同研究を行い、姉妹校とのオンライン国際会議で相互に英語で発表し、環境とテクノロジーを融合させた実践的な活動を展開しました。3年目となる今年度は、これまでの取組をさらに発展させ、スポーツのAI利用、ドローンを活用したスポーツ競技の分析や、スマート農業の体験学習など、新たな領域への挑戦を予定しています。加えて、短期・長期留学の外国人留学生と共に生活する寮環境を活かし、日本人とともにデジタルを活用して協働する授業を推進します。こうした学びを通して、生徒たちは同世代における「デジタル活用の国際基準」に触れ、自らの可能性を広げるとともに、理系分野への進学意欲を高めていきます。本校は今後も、生徒一人ひとりが未来社会を切り拓く力を育む教育に取り組んでまいります。



4年日本語Ⅲ チョウ コンギ 中国 / マンガ



私が明德義塾高校に来た理由は、礼儀と規則を大切にする校風に惹かれたからです。ここでは勉強だけでなく、色々な面で成長できと思っています。自分を成長させ、何でも自分のできるようになりたいです。入学してから、今まで感じたことのない経験をたくさんしました。先生たちはとてもやさしく、色々な国から来たクラスメート達はみんな親切で、助け合って仲良く生活しています。これからの目標は、毎日真面目に授業を受けて、勉強の基礎をしっかりと作ることです。また、日本の礼儀やルールをしっかりと学び、志望する大学に合格するための準備をしたいです。

4年日本語Ⅲ ヨウ キュウタツ 中国 / ウェイトリフティング



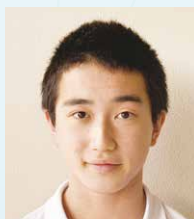
私が明德に入学した理由は自分の夢を実現するために、より良い環境で勉強をしたいと思ったからです。また、新しい友達を作り、自分自身を成長させたいという気持ちもありました。入学してから2カ月が経ちましたが、先生方はとても親切で、授業も分かりやすいと感じています。最初は新しい環境に慣れることが大変でしたが、クラスメートや先輩たちのおかげで、今では楽しく学校生活を送ることができています。目標は、勉強とクラブ活動の両方を頑張って、将来の進路につながる知識や経験をたくさん身に付けたいと思っています。

4年英語 コウ シイン 中国 / 合気道



英語コースに合格したので、高校2年生でカナダまたはオーストラリアに1年間留学することができます。入学して2カ月間で、日本の友人たちの親切さを感じ、また日本の現地文化を体験しました。その中で大きな違いがあります。例えば、中国の学校の食堂は主に炒め物と白米を中心としており、日本では麺類が中心です。さらに国語は、中国ではすべての書籍は右開きで、内容は左から右へ横書きで書かれています。しかし日本では、国語は左開きとなり、内容は右から左へ縦書きされます。最後に私の目標です。これから3年間、日本語と英語を一生懸命学び、同級生と仲良く過ごしたいと考えています。

4年中国語 高橋 斗真 東京都 / 卓球



私は小さい頃から卓球に力を入れていました。そのため、とてもチーム力がありレベルの高い明德義塾に入学しようと思いました。明德での生活は今までと違い両親の支えが身近にない中で頑張らなくてはなりません。ですが周りのチームメイトや先生方の支えが大いにあるので、自分は安心して一生懸命頑張ることができています。私は今まで自らの行動や、努力ができなかったのが、明德の生活では、自分から率先して行動し、周りを驚かせるくらい努力して、文武両道で頑張っていきます。

4年日本語Ⅰ グエン アイヴァン ベトナム / バドミントン



明德に留学した理由は、日本で高校生活を送りたかったからです。また、明德では日本語の勉強をしっかりとサポートしてくれるだけでなく、一人ひとりの得意なことや可能性を伸ばすことができると思い選びました。入学してから、とても充実した毎日を過ごしています。学校の校則や生活の規則は厳しいですが、そのおかげで規則正しい生活習慣や礼儀を身に付けることができています。目標は、まず日本語力をさらに向上させたいです。そして、授業の内容をもっと理解できるように勉強を頑張り、成績をもっと伸ばしていきたいです。また、様々なことに挑戦し、自分自身を成長させられるように努力していきます。

4年日本語Ⅰ ツォルモン ガルバドラフ モンゴル / 硬式テニス



私は中学校2年生から明德に来ました。中学生のときはあまり勉強していませんでしたが高校に入ってから一生懸命勉強することが大事だと気づきました。私は、硬式テニス部に入っています。硬式テニスは面白くて、好きです。練習ももっとがんばります。私の目標は、3つあります。優秀な成績で明德を卒業すること、日本語能力試験でN1を取得すること、日本語が流暢に話せるようになることです。目標を達成できるように毎日、努力していきます。

4年日本語Ⅱ キム ドンボム 韓国 / バドミントン



私は日本語を上手に話せるようになりたいと思い、明德に入学しました。日本に来る前は新しい環境や学校生活に不安もありましたが、実際に来てみると、先生方や友達が優しく接してくれて安心することができました。最近は少しずつ日本語にも慣れ、毎日楽しく過ごしています。特に、バドミントン部での活動が楽しく、友達と一緒に練習する時間が好きです。これから、日本語の実力をもっと伸ばし、勉強と部活動の両方で良い結果を出せるように頑張りたいです。そして、たくさんの経験をして自分自身を成長させたいと思います。

4年日本語Ⅱ ゴ エンケン 中国 / 吹奏楽



私が明德に入学した理由は、自主学習する時間が多くあるからです。また、さまざまなクラブ活動があることも魅力の一つでした。前から日本に来たいと思っていました。理由は、日本は先進国の一つで、医療技術も発展しています。私は医療分野を学びたいからです。明德に来てから、毎日とても新鮮です。私は吹奏楽部に所属しており、音楽と触れ合うことがとても好きです。ここに来て、今まで触れたことのない楽器にも挑戦しました。クラブのみんなは親切で、いつも丁寧に教えてくれるので、とても感謝しています。しかし、ただ楽しむだけではだめなので、自分が学ぶべきことを一生懸命学び、他の人に迷惑をかけないようにしていきたいです。

竜キャンパス防災学習講演会

5月11日、竜キャンパス食堂で竜キャンパスの中学校1年生から高校1年生を対象に防災学習講演会が開催されました。講師として土佐市役所防災対策課の方をお招きしました。『地震と避難の勉強』をテーマに、地震や津波の説明や実際に地震災害が起きたらどのような被害状況が予想されるのか、避難場所と避難所の違いの説明などをビデオやスライドなどを使って「やさしい日本語」で留学生にも分かりやすく丁寧にお話してくださいました。また、シェイクアウト訓練やクイズなども交えて生徒も参加できる工夫もあり、みんな積極的に参加し、机の下にもぐって頭を守る行動をとったりしました。最後に3年2組の筒井千春さん（防災委員）が「今日は、明德生のために防災について貴重なお話をしていた、ありがとうございました。南海トラフ地震に関する具体



的な被害想定を知り、防災をより自分事として考えることができました。また、「やさしい日本語」での説明を通して、留学生を含めみんなで情報を共有し、助け合って備えることの大切さを改めて感じました。今日学んだことを忘れず、今後の防災に生かしていきたいと思います」と代表してお礼の言葉を述べました。

保護者学級

6月26日、両キャンパスにおいて保護者学級が行われ、多くの保護者の皆様にご参加いただきました。授業参観では、全国各地から来校された保護者の皆様も、普段見ることのできない子どもたちの授業に取り組む姿を熱心に見学されました。また、寮生活を送る生徒たちは、久しぶりに保護者と再会し、笑顔あふれるひとときとなりました。授業参観後には、公益財団法人モラロジー道德教育財団 生涯学習センター長の藤井孝子先生をお迎えし、「後姿が子どもを育てる」と題した特別講義を実施しました。講義では、父母や祖先を敬い感謝する心の大切さや、子どもは親の言葉だけでなく、その生き方や日々の姿を見て成長していくことについて、ご自身の体験を交えながらお話しいただきました。「よりよく生きようとする親の後姿こそが、子どもの成長につながる」というメッセージは、参加した保護者の皆様の心に深く響き、これからの子育てを見つめ直す貴重な機会となりました。午後からは、担任との個別面談が行われ、学校や寮での生活の様子について話し合い、子どもたちの日頃の成長を保護者と共有する有意義な時間となりました。



6年生いのちのレッスン～救急法～



6月10日、高校3年生を対象とした「いのちのレッスン」が本校体育館で行われました。当日は、日本赤十字社より4名の講師をお招きし、救急法（心肺蘇生法およびAEDの使用法）についての講話と実技講習を実施していただきました。まず、生徒一人ひとりがモデル人形（アクター）を使用し、心臓マッサージの方法について学びました。胸骨圧迫を行う位置や手の置き方など、基本的な技術を丁寧に指導していただきました。その後、4人1組に分かれ、実際の人体に近い感覚を再現したモデル人形（リトルアン）を用いて胸骨圧迫の練習を行いました。最初は力加減に苦労する生徒もいましたが、講師の先生方からコツを教えていただき、適切な方法で実践できるようになりました。また、AEDの使用法についても講師の先生方による実演が行われ、その後、生徒たちが実際に機器を使用しながら一連の流れを真剣に学びました。

講習の中では、講師の先生から実際に救命活動が行われた事例についてのお話があり、「もしそのような場面に遭遇したら、見て見ぬふりをせず、勇気を持って行動してほしい」とのメッセージが送られました。

さらに、スクールカウンセラーの上河扶紀枝先生からは、マザー・テレサの「愛情の反対は無関心」という言葉が紹介され、「自分の知っているだけでなく、見知らぬ人が道で倒れていた時にも手を差し伸べられる人になってください」と、生徒たちへメッセージが贈られました。

最後に、生徒を代表して続木虎太郎くん（6年B組）が、「今後の人生でこのような場面に遭遇した際には、一人でも多くの命を救えるよう、今日学んだことを活かしていきたいと思います。本日はありがとうございました」と感謝の言葉を述べ、講習を締めくくりました。今回の講習を通して、生徒たちは救命の知識と技術だけでなく、人の命を大切に作る心や、困っている人に手を差し伸べる勇気についても学ぶことができました。

中学2年・3年のいのちのレッスン



6月18日、中学2年生は牧野植物園を訪れました。はじめに上河先生から、牧野富太郎博士の偉大な業績や、妻・壽衛（すえ）さんの名前が付いた植物についてのお話がありました。また、本校2期生の黒岩宣仁さんが植物園の建設に尽力されたことも紹介され、生徒たちは世界的に有名な植物園で学ぶ意義を感じていました。

その後は学芸員の方の説明を聞きながら園内を見学し、牧野博士の人物像やさまざまな植物について学びました。生徒たちは熱心に説明を聞き、理解を深めていました。

同日、中学3年生は坂本龍馬記念館を訪れました。講話では坂本龍馬の生涯や功績について学び、「日頃の努力を積み重ね、チャンスをつかむことの大切さ」についてお話を聞きました。また上河先生からは、「一刻生涯」という言葉を通して、一日一日を大切に積み重ねることについてお話がありました。

その後、生徒たちは館内の展示を見学したり、体験コーナーを楽しんだりしながら学びを深めました。桂浜では天候にも恵まれ、自然や景色を楽しみながら有意義な時間を過ごしました。



明德祭 (祖先祭)

5月9日、明德神社および明德慰霊塔にて、明德祭が行われました。明德祭は、日頃より私たちをお守りくださっている神様に感謝を捧げ、今後も安全で健やかな日々を過ごせるよう祈願する大切な祭事です。あわせて、本校の創立者ならびに学校設立に尽力された先人の御霊、在学中または卒業後に事故や病気により亡くなられた方々を偲び、その御霊を慰める慰霊祭としても執り行われました。

芋の苗植え



堂ノ浦キャンパスの中学生が、6月12日に芋の苗の植え付けを行いました。梅雨入り後の天候を見ながら、貴重な晴れ間を狙って実施したこの日の作業。強い日差しが照りつける暑い一日となりましたが、生徒たちは楽しそうに芋の苗を植えていました。これから収穫までの約4か月間、苗の成長を見守りながら、植物を育てる喜びや、お世話を続けることの大切さを学んでいきます。植え付け後の1週間ほどは、苗がしっかりと根付くために水やりが欠かせません。ちょうど梅雨の雨が続く時期でもあり、自然の恵みが苗の成長を後押ししてくれそうです。秋の収穫が今から楽しみです。

奥四万十高知留学生インバウンド観光大使研修

令和8年度奥四万十高知留学生インバウンド観光大使研修が5月9日は津野町、5月16日は梶原町で行われました。奥四万十観光大使とは、奥四万十高知のインバウンド事業として本校の留学生が2年間観光大使になり世界に発信していくものです。

4回にわたる奥四万十での体験を通して、留学生が実際に経験し観光大使としての役割を果たしていきます。

第1回目(5月9日)は、天狗高原やフォレストアドベンチャーでの体験や奥四万十の郷イチョウノキで田舎のお昼ごはんを食べたり、吉村虎太郎生家・早瀬一本橋を見学しました。第2回目(5月16日)は、Washi Studio かみこやで紙漉き体験、雲の上の温泉にて昼食を摂り、雲の上のギャラリー見学やガイドさんの案内で梶原町内まち歩き、役場庁舎やゆすはら座、雲の上の図書館、三嶋神社、マルシェ・ユス

ハラを訪れました。

参加したのは、小林華奈さん（メキシコ）、キムガヨンさん（韓国）、カカキ君（中国）、チョウリュウトク君（中国）、パクソウンさん（韓国）、キラアイシャコチョさん（インドネシア）、チョウジャクカンさん（中国）、ショウハクブン君（中国）、レイザイデンウブリ君（中国）、カクシセイさん（中国）、ソウシロさん（中国）、ジョンイナさん（韓国）、チョウロケイさん（中国）、チョウテイコウ君（中国）、チョウブンエイ君（中国）です。





本校卒業生が 全国女子大学ゴルフ 対抗戦で優勝

司 大 学

6月23日から25日にかけて、北海道・苫小牧ゴルフリゾート 72 エミナゴルフクラブ東コースで開催された「第49回全国女子大学ゴルフ対抗戦」において、本校卒業生の藤田藍さん（45期生）、中村巴南さん（47期生）が所属する近畿大学が見事優勝を果たしました。

卒業生の活躍は、本校ゴルフ部で日々練習に励む生徒たちにとっても大きな励みとなります。

世界へ挑戦し、UCバークレーを卒業

第42期生の中山大和さんが、2025年5月にアメリカのカリフォルニア大学バークレー校（UCバークレー）を卒業しました。

中山さんは明德義塾高校卒業後に渡米し、語学学校で英語を学んだ後、カレッジで2年間経済学を専攻。その後、2024年5月にUCバークレーへ編入学し、今年5月に卒業を果たしました。

本校在学中は中学・高校野球部に所属し、甲子園出場を目標に日々練習に励んでいました。転機となったのは、中学3年生の時に参加した3週間の短期留学研修です。この経験をきっかけに英語への興味を深め、さらに本校を訪れる海外からの短期留学生との交流を通して、「海外で学びたい」という思いを強くしました。

努力を積み重ね、世界屈指の名門大学であるUCバークレーへの進学・卒業という夢を実現した中山さん。その挑戦は、後輩たちにとって大きな励みとなることでしょう。

※UCバークレーは、THE世界大学ランキング2025で第9位にランクインしています。



台湾・玄奘大学との高大連携協定調印式

4月16日、本校理事役員室で台湾・玄奘大学との高大連携協定調印式が執り行われました。

式では、寄本校長より「2024年2月に玄奘大学を訪問して以来、非常に早いスピードで本日の提携に至ったことに深いご縁を感じています。今後、強く長い関係を築いていけることを心より願っております」と挨拶があり、両校の連携への期待が述べられました。

続いて協定書への署名が行われ、両校から記念品の贈呈が行われました。

最後に、玄奘大学の陳光紫教務長より、「このような美しいキャンパスにお招きいただき、調印できたことに感謝しております。午前中に竜キャンパスを訪問した際には、生徒の皆さんの挨拶や会話から、道徳教育がしっかりとなされていると感じました。卒業後も立派に成長されている姿が想像できます。今後、明德との長き



にわたる交流をはじめ、明德の高校生と玄奘大学の学生との交流、さらには明德生の卒業後の進路につながることを期待しています。これからの交流を通して、台湾のことを学び、知っていただけることを楽しみにしています」と挨拶がありました。

今後、両校の教育・文化交流が一層深まり、生徒・学生の国際的視野の醸成につながることを期待されます。

姉妹校台湾・成徳高級中学校来校

4月15日から18日まで、台湾・新竹市にある姉妹校、成徳高級中学から20名の野球部員が来校しました。滞在中は合同練習や交流試合を行いました。歓迎会では言葉の壁を越え、友情を育みました。海外から野球を通じて来校された成徳の皆さんとの交流により、本校生徒にとっても大きな刺激となり、視野を世界へと広げる貴重な機会となりました。



ようこそおかえり ～24年ぶり中国からの留学生OB・OG帰校～

6月18日・19日の2日間にわたり、24年前に本校を卒業した中国人留学生のOB・OG11名が、卒業後初めて明德を訪れてくれました。この企画は、叢文新さんの「みんなで同窓会をしよう」という呼びかけから始まったものです。当日は、かつて本校で勤務されていた恩師・葛駿鋒先生も同行してくださいました。

まず一行は竜キャンパスを訪れ、在校生の留学生たちと交流しました。中国語で、当時の明德での生活や卒業後の進路、そして将来の夢や仕事について、和やかな雰囲気の中で語り合いました。

交流の最後には、朱文彬さんが後輩たちに向けて、「明德で学び、身につけたことをこれからの人生に活かしてください。そしていつか、今日の私たちのように母校を訪れ、次の世代へとその経験をつないでほしいと思います」と温かいメッセージを送りました。

その後、一行は堂ノ浦キャンパスへ移動しました。校舎や寮、思い出の場所を巡る中で、当時の記憶が次々とよみがえり、皆さんの表情はまるで学生時代に戻ったかのようでした。懐かしい場所で写真を撮りながら校内を見学し、和太鼓部を訪問した際には歓迎演奏も披露していただきました。その力強く美しい音色に感動し、涙を流す方もおられました。

夕食は、当時を懐かしみながら食堂で食事をとり、その後は先生方との懇親会が開かれ、思い出話に花を咲かせました。

翌19日は朝礼に参加し、寮生たちに12名の皆さんを紹介しました。24年ぶりの「箸とらば」や学生たちと一緒に囲む朝食に、学生時代へ戻ったような懐かしい時間を過ごされていました。

その後は、最新の寮や当時生活していた寮を見学しました。懐かしい思い出に話が尽きることなく、終始写真を撮りながら母校での時間を楽しんでいました。

寮見学の後には、塾長、校長、教頭をはじめとする先生方との懇談会が行われました。塾長からは、「ようこそ、おかえり。皆さんは明德人です。青春時代を過ごしたこの場所は、皆さんにとって第二のふるさとです。こうして再び帰ってきてくれたことを大変うれしく思います。本当にありがとう」との歓迎の言葉が贈られました。

これに対し、卒業生を代表して朱文彬さんが、「昨日は和太鼓の演奏で迎えていただき、ずっと感動しっぱなしでした。24年前、明德で学んだのは日本語だけでなく、人として大切な価値観や考え方は、卒業後の人生において大きな支えとなっています。この貴重な経験を、これからも家族や周囲の人々に伝えていきたいと思います。本当にありがとうございました」と感謝の言葉を述べられました。

さらに、母校への感謝の気持ちとして25万円の寄付金が贈られ、記念植樹も行われました。そして、一行はたくさんの思い出とともに学び舎を後にしました。

本校には現在も世界各国から多くの生徒が集い、ともに学び、成長しています。今回帰校された皆さんの中には日本で活躍されている方もおられますが、多くの方が中国からこの日のために駆けつけてくださいました。

卒業から24年という長い歳月を経ても、母校を「第二のふるさと」として大切に思い、再び訪れてくださることは、私たちにとって大きな喜びであり、誇りでもあります。国や地域を越えて育まれたつながりの尊さを改めて感じる、心温まる2日間となりました。

今回は、中国大連に先生方が訪問し、同窓会を行うことを約束しました。

この度はご来校いただき、本当にありがとうございました。

ようこそ、おかえり。



空手部



令和 8 年度 高知県高等学校空手道春季大会が 4 月 19 日、高知県立武道館で行われました。

【女子団体組手】	【男子個人形】	【女子個人組手】
優勝 赤松丈太郎	優勝 須恵みゆう	準優勝 須恵みゆう
【男子団体組手】	準優勝 松本涼太	第 3 位 横山仁子
優勝 A チーム	第 3 位 田宮学武	第 4 位 竹内実麻
準優勝 B チーム	第 4 位 川村偉飛	【男子個人組手】
【女子個人形】		優勝 辻岡季也
第 3 位 加島陽桜莉		準優勝 横田龍
		第 3 位 川島海二
		第 4 位 横田竜

県スポーツ少年団
総合交流大会
空手道競技



第 35 回高知県スポーツ少年団総合交流大会空手道競技が 4 月 29 日、高知県立青少年体育館で行われ中学生が出場しました。

【女子個人形】	【男子個人形】
準優勝 本田彩楽 (2 年 1 組)	優勝 谷本優仁 (2 年 1 組)
【男子個人形】	【女子個人組手】
優勝 谷本優仁 (2 年 1 組)	準優勝 本田彩楽
【女子個人組手】	第 3 位 竹内千智 (2 年 1 組)
準優勝 本田彩楽	【男子個人組手】
第 3 位 竹内千智 (2 年 1 組)	準優勝 毛利秀門 (2 年 1 組)
【男子団体組手】	第 3 位 寺岡海喜 (1 年 1 組)
3 位 A チーム	
3 位 B チーム	

カヌー部岡村さんアジア大会金メダル



2026 カヌースプリント日本代表選手選考会が 3 月 25 日から 29 日にかけて、香川県坂出市の府中湖カヌー競技場で開催され、本校カヌー部の岡村明咲さん (5 年特進 I) が見事日本代表に選出されました。その後、5 月 1 日から 3 日にニュージーランドで開催されたアジアパシフィックスプリントカップに出場し、各国の強豪選手が集う国際大会の舞台で見事優勝を果たし、金メダルを含む 6 つのメダルを獲得しました。今後もさらなる活躍が期待されます。

- 優勝 U16 女子カヤックペア 500m 1 分 53 秒 68
- 優勝 U16 混合カヤックシングルリレー 800m 2 分 58 秒 45
- 準優勝 女子カヤックシングル 500m 2 分 9 秒 90
- 準優勝 女子カヤックフォア 500m 1 分 45 秒 56
- 3 位 女子カヤックシングル 200m 45 秒 95
- 3 位 メガミックスリレー 6×200m 4 分 32 秒 41

高知県
ジュニアゴルフ



5 月 17 日、高知県ジュニアゴルフ選手権競技がスカイベイゴルフクラブで行われ、中高女子優勝、男子も上位の成績を収めました。

【中学女子】	【中学男子】
優勝 須藤弥勒 (3 年 2 組) 68 (35 33)	2 位 武森達真 (3 年 2 組) 89 (44 45)
【高校女子】	3 位 水野ガイア (2 年 2 組) 98 (49 49)
優勝 佐藤梨乃 (6 年英語) 72 (38 34)	【高校男子】
4 位 久保川明愛 (5 年 C 組) 77 (38 39)	3 位 岸本貴裕 (5 年 C 組) 75 (38 37)
5 位 小川琴海 (4 年英語) 79 (41 38)	4 位 谷口 舜 (5 年 D 組) 77 (41 36)
6 位 森本寿叶 (5 年 C 組) 79 (34 45)	5 位 河村朋輝 (5 年 D 組) 77 (39 38)
9 位 藤井佑朱 (5 年中国語) 87 (44 43)	

空手道部
中学生全中予選



第 44 回高知県少年少女空手道大会 (全中予選) が 5 月 5 日、高知県立武道館で行われました。

【男子団体形】	優勝
【男子団体組手】	優勝
【女子団体組手】	準優勝
【女子個人形】	優勝 本田彩楽
【男子個人形】	優勝 谷本優仁
	第 3 位 半谷来緒 (3 年 1 組)
	第 4 位 森澤颯斗 (1 年 1 組)
【女子個人組手】	第 3 位 本田彩楽
	第 4 位 馬場琴心 (3 年 1 組)
【男子個人組手】	第 3 位 毛利秀門
	第 4 位 森澤颯斗

個人、団体ともに準優勝までが 8 月 21 日～23 日に静岡県このはなアリーナで行われる第 34 回全国中学生空手道選手権大会に出場します。

カヌー部中高春季大会

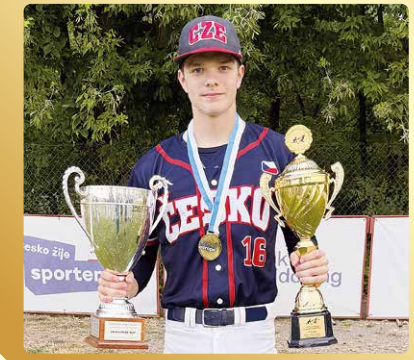
高知県カヌー協会小学生・中学生、高等学校男・女カヌー競技春季大会が 4 月 12 日、須崎市立スポーツセンターカヌー場で行われました。



【中学生】
女子カヤックシングル
優勝 竹下清葉 (2 年 2 組) 2 分 53 秒 60
男子カヤックシングル
準優勝 宮地輝翔 (2 年 1 組) 2 分 54 秒 22
【高校生】
男子カヤックシングル
4 位 佐竹海頼 (5 年中国語)
9 位 ワニチャヨパコン ポチャラ (6 年 D 組)

アダム君 U-18 男子ソフト
ボール欧州選手権で優勝

6 月 30 日から 7 月 4 日までチェコで開催された U-18 男子ソフトボール欧州選手権 (MSECh) '26 において、チェコ代表が見事優勝を果たしました。チェコ出身本校ソフトボール部のグーハネック アダム君 (4 年日本語Ⅲ) は、チェコ代表の一員として大会に出場し、チームの優勝に大きく貢献しました。



ハイスchoolジャパンカップ
ソフトテニス福見君準優勝

第 55 回ゴーセン杯争奪ハイスchoolジャパンカップソフトテニス 2026 が 6 月 25 日～28 日、札幌市円山庭球場で行われました。



【男子シングルス】
準優勝 福見優心 (6 年特進 I)
第 5 位 林寿李稀 (5 年 C 組)
【男子ダブルス】
第 5 位 福見優心・林寿李稀

パドミントン中学春季大会



中学春季バドミントン大会が 5 月 4 日～5 日、春野体育館で行われました。

【団体戦】
準優勝
上野幹太 (3 年 2 組)、
ローリオン モーガン (2 年 2 組)、
松井結人 (2 年 2 組)、
竹村侑真 (1 年 2 組)、
リユソン (1 年 2 組)
【男子ダブルス】
優勝 ローリオン モーガン・竹村侑真
【男子シングルス】
準優勝 上野幹太

ソフトテニス春季大会
男女団体優勝



高知県高等学校ソフトテニス春季大会が 4 月 18 日、19 日に INOUE・東部スポーツパークテニスコートで行われ、男女団体・個人 (福見優心・林寿季稀・弘瀬美咲・岡部こころ) が優勝を果たしました。

中学校ソフトテニス
連盟盾大会



高知県中学校ソフトテニス連盟盾大会が 5 月 6 日、INOUE・東部スポーツパークテニスコートで行われました。

【男子個人戦】
優勝 山本悠人 (3 年 1 組)・
菊池希至 (1 年 2 組)
第 3 位 佐藤和哉 (3 年 2 組)・
景山成 (2 年 2 組)
ベスト 8 伊藤一志 (3 年 2 組)・
木内蓮人 (1 年 2 組)

県中学校ソフトテニス春季大会



高知県中学校ソフトテニス春季大会が 5 月 5 日、INOUE・東部スポーツパークテニスコートで行われました。

【男子個人戦】
優勝 山本悠人 (3 年 1 組)・
菊池希至 (1 年 2 組)
第 3 位 佐藤和哉 (3 年 2 組)・
景山成 (2 年 2 組)
ベスト 8 伊藤一志 (3 年 2 組)・
木内蓮人 (1 年 2 組)



手ぶくろを買いに

(著:新美南吉/偕成社)

2年1組/山崎涼日(高知県)



この本は、人間や動物は形が違って、心を合わせることが大切だと教えてくれるお話です。ある冬の朝、きつねの親子の住む森に、一面の雪が降りました。初めて見る雪に大喜びした子ぎつねは、外を走り回って遊びます。戻ってきた子ぎつねの手は、冷え切ってしもやけで赤紫色になってしまいました。そんな子ぎつねを見て、母ぎつねが毛糸の手袋を買ってやろうとする所から始まります。母ぎつねは、子ぎつねの片手を人の手に変え、銅貨をにぎらせ「必ず人間の手のほうを差し出すんだよ」と教えて、町へ送り出しました。しかし、子ぎつねは間違えて本当の手を差し出してしまいました。そのため、店の主人にはきつねだとわかってしまいますが、追い払ったりしません。人間のように接して、暖かい手袋を売ってくれました。人間ときつね、形は違っても心はひとつです。



上昇思考

(著:長友佑都/角川書店)

2年1組/小林律希(広島県)



この本は、プロサッカー選手長友佑都選手が書いたものです。この本には、幸せを感じるための大切なことが書かれています。長友選手は、初めて海外のプロサッカーチームに行った時に、大きな壁にぶつかりました。それは、デビュー戦の時にプレッシャーと緊張で、思い通りにプレーができないということです。長友選手は、この壁は技術やスピード不足が原因だと考え、普段の練習や自主練などのトレーニングを増やしてみました。しかし、好転することはありませんでした。考えていくうちに、技術ではなく、心の問題だということにたどり着きました。そのことを理解して、心に余裕を持って臨んだところ、たくさんのいいプレーができたそうです。僕も、緊張した時はこの本のことを思い出し、プラスになる思考をイメージして試合に臨むようにします。



成功の思考法

(著:サッカーキング編集部/フロムワン)

2年1組/萩原颯人(兵庫県)



一流と呼ばれる人たちの言葉を通して、成功の思考法を見つけ、強く生きるための道しるべを教えてくれる本です。日本サッカー界には、心強い助言をくれる選手がたくさんいます。彼らは、海外を舞台にプレーをしたり、日本代表の一員でもあります。誰もが、大きな壁に直面したことがあります。それを、プロはどう乗り越え、失敗を自分のものとしてつかんできたのか、わかりやすく書かれています。安田理大さんの言葉が、一番印象に残りました。それは「壁があるのは当たり前。それを壁だと思わず、何事にもチャレンジするという気持ちでいます」という言葉です。何事にも楽しんでチャレンジすることが大切だとわかりました。これからは、どんどんチャレンジしていきたいと思わせてくれた一冊です。



ごんぎつね

(著:新美南吉/偕成社)

2年1組/竹内千智(高知県)



この物語は、村の兵十というおじさんと、一人ぼっちの子ぎつねのお話です。村から少し離れた山に「ごんぎつね」というきつねがいました。一人ぼっちのごんは、近くの村に出て悪さをする困ったきつねでした。ある日、ごんは穴から出て食料を探すため、小川の土手に行きました。川の中には兵十がいて、ごんは見つからないように、草むらに隠れていました。ごんは、すきを見て兵十が捕った魚を、横取りしました。そして、盗んだ魚を美味しく食べました。その魚は、兵十が病気の母親のために捕ったうなぎだったことを知り、ごんは自分のやったことを、後悔をしました。また、そのごんに取り返しのできない仕返しをした兵十も、後悔をすることになります。この本は、図書室で借れます。続きを知りたい方は、ぜひ読んでください。



心を整える

(著:長谷部誠/幻冬社)

2年1組/高橋玄乃介(高知県)



心は鍛えるものではなく「整える」もの。安定した心を装備することで、常に安定した力と結果を出せる。長谷部誠は、ワールドカップのバグアイ戦でバグアイの最後のキッカーがPKを決めて「負け」が確定した時、GKの方に歩いていった。長谷部選手は、もちろん勝ちたいと願っていたけれど、「入れられて負けたら仕方ない」と考えていたのかもしれない。何が起ころうとも心が乱れないように、普段から「最悪の状況」を想定し準備を進めていたらしい。僕も常に最悪の状況を想定し、試合に負けても日常生活で安定した心を準備して、生活をしていきたい。この本は、長谷部選手の体験や考え方がまとめられています。

第49回



わたしのイチオシ!



走り続ける才能たち

(著:安藤隆人/実業之日本社)

2年1組/川淵洸雅(高知県)

僕は、保育園の頃からサッカーをしており、約10年間ボールを蹴り続けています。その期間、一度も大きな大会に出場することはありません。唯一、市の大会で勝ったことだけです。なぜ僕が明德に入学してサッカーを頑張っているのか、それは一つの大きな目標があるからです。それは「全国中学校サッカー大会」に出場することです。僕が、この本を読んで一つ心に残っている所があります。それは、「この大会に出よう!」という所です。一つの目標を決めて、チームで取り組んで行く所が、心に残りました。僕も、自分の大きな目標に向けて、日々の練習や、チームでの取り組みを大事にしていきたいと、改めて思いました。この本は、僕の背中を押してくれました。

インドネシア国際交流 ・和太鼓公演を実施

5月10日から17日にかけて、本校和太鼓部および関係生徒がインドネシアを訪問し、学校説明会や文化交流、公演活動を行いました。

5月10日には、メダンにあるグラハキラナ大学で学校説明会を開催しました。14校から約80名の小・中・高校生が参加し、本校の特色や学校生活について紹介しました。また、2014年に本校を卒業し現在同大学に勤務されているアブラルさんから、「明德での経験はかけがえのないものだった」と自身の体験談を語っていただきました。

翌11日には、メダンのNakamura Schoolと姉妹校提携調印式を実施しました。今後は長期・短期プログラムを通じて、生徒同士の交流を深めていく予定です。また、在メダン日本国総領事館を訪問し、古郡総領事、鈴木領事と国際交流や日本文化の発信について意見交換を行いました。

13日には、ジャカルタ日本人学校（JJS）で和太鼓公演を開催しました。全校児童・生徒約800名の前で演奏を披露し、大きな拍手をいただきました。公演後には中学3年生約50名を対象に、和太鼓体験やしばてん踊り、学校説明を行うワークショップも実施し、交流を深めました。

同日、国際交流基金ジャカルタでも和太鼓演奏会と学校説明会を開催しました。約80名の参加者が来場し、演奏だけでなく学校紹介にも高い関心を寄せてくださいました。

14日にはメダンのKモールショッピングセンターで公演を行いました。日本の高校生がインドネシアのショッピングモールで和太鼓演奏を行う初の試みとなり、2回の公演には合計約500名が来場しました。演奏後のワークショップや学校説明ブースにも多くの方が参加し、大変盛況なイベントとなりました。

15日には姉妹校であるブキットシオンスクールを訪問し、約400名の生徒の前で交流公演を行いました。歓迎式典ではインドネシア伝統舞踊で温かく迎えていただき、その後は和太鼓演奏



や文化交流を実施しました。また、現地の児童生徒から伝統楽器「アングルン」や伝統舞踊を教わるなど、貴重な異文化交流の機会となりました。

16日にはジャカルタの紀伊國屋書店で日本文化紹介イベントを開催しました。書道、カルタ、折り紙、日本語会話、進路相談の各ブースを設置し、多くの来場者と交流しました。和太鼓の演奏も行われ、会場は大いに盛り上がりしました。

最終日の17日には、ジャカルタ市内のウィンダムホテルで和太鼓公演と学校説明会を実施しました。会場は満席となり、追加席が必要になるほどの盛況ぶりでした。滞在期間中最後の公演では、生徒たちがこれまでの成果を存分に発揮し、多くの観客を魅了しました。

今回のインドネシア訪問では、学校説明会や文化交流活動を通して本校の魅力を広く発信するとともに、多くの現地の方々との交流を深めることができました。和太鼓をはじめとする日本文化の紹介を通じて、国際理解を深める大変有意義な機会となりました。

